

共通基礎科目・その他の選択科目

ここにあげたもの以外にも多くのご感想・ご意見をいただき、ありがとうございます。

●ボランティア論

- ・先生の実体験に基づいた講義はいろんな場面が垣間見られ、現場の苦勞が感じられました。学んだことを現場で生かせるように努力します。
- ・ボランティアだけかと思ったら、NPO、SWなど幅広い講義内容で面白かった。ボランティアを行う時“偽善的かな？”といつも思ってしまうが、動機なんてなんでもいいのだなと講義を受けて感じた。
- ・ボランティアを受ける側の心や体の負担をやわらげてあげることはもちろんのこと、ボランティアをする側の心のケアも大切であり、それをどのように力を合わせてケアしていくかということを考えていかなければならないということに気付かされました。

●科学的な見方・考え方

- ・物事を分析したり、構造的に考えたり、捉えたりということに苦手意識があり、理解しにくいところがあったが、今回のスクーリングで糸口をつかめたような気持ちになっている。表・グラフを分析し読み取ること、そこから自分の意見を考えることを続けられるようにしたい。スクーリングに参加してよかったです。

●情報処理 I

- ・エクセルやIF関数、絶対関数の使い方が勉強になりました。パワーポイントを使ってプレゼンできるようになり良かったと思います。
- ・エクセルは難しかったが、日常の中で使える関数もあることがわかり、このスクーリングを受けてよかった。

●福祉と経済

- ・一つ分野では解決できないことがたくさんあるということに気付かされました。
- ・福祉と経済は決して別物ではなく密接に関係していること、福祉は人間の生活において普遍的なものであり、社会全体で捉えることの重要性を改めて考えさせられた。

●法の基礎

- ・難しい専門用語もよく理解することができたのは、先生が1つ1つ丁寧に噛み砕いて教えてくださったからだと思います。今までの講義で一番よく身についたと思います。ス

クーリング試験は少し苦労しましたが、その分本気で頑張れました。

- ・ひとが活着ているように、法律もその時代ごとに变化していると気付かされました。自分がまだまだ知らない法律があるのだと、改めて学びました。

●人間と教育

- ・普段は高齢者の終末に関わる支援をしています。今回スクーリングでは人間の誕生からの教育について講義を聞かせて頂き、いつもと違う捉え方で人間について考える時間を頂きました。高齢者支援は残された人生をそのように過ごしていくのかですが、教育はゼロからどのように育てるか？人間にとって大切な課題だと気づかされました。

●生命の科学

- ・生命の誕生のメカニズムの神秘的なプロセス、人間の体の難しいようで意外なほど単純な積み重ねの仕組みなど、とても楽しく学ばせて頂きました。
- ・脳を中心部の情報伝達システムの細やかさや、外界からの刺激や環境によって脳の働きも変わってくるので、認知症の方への支援がもっと進むことを願いたいと思いました。

●コミュニケーション英語

- ・少人数だったせいもあり、とてもアットホームな感じで楽しく学習できました。シュミット先生のフレンドリーであたたかい人柄が伝わり、特に手作りのケーキや学習中の音楽など、とても良かったです。
- ・今まで英会話のコミュニケーションをとる場を経験していなかったため、とても楽しくいい経験となった。

●スポーツ（バレーボール）

- ・印象に残ったというか、現実的には内出血と筋肉痛が残りましたが、それ以上に楽しい講義と同じ学生との仲間意識が高められたことが良かった。また、スポーツを活用して現代の問題を減らしていくという視点、誰もが心地よくいられるようにするためには配慮が大切だということを学ぶことができた。
- ・講義の最初にお話された配慮の必要性の大切さを感じた3日間でした。部活のような活動量の運動もなかなかできない経験でしたが、気持ちよく汗をかけました。

●基礎演習

- ・通信での勉強はとても根気が必要でくじけそうになります。今回の講義の中で先生が言ってくださった、「今日は悩みなどを話したりできる仲間作りをしたりして…」という言葉でとても楽になり、グループ討議でも肩の力を抜いて話ができました。今後の勉強のモチベーションにも役立てられると思います。

- ・グループでの取り組みの大切さ、協力して1つの課題を仕上げることが福祉の連携の部分に通じているように感じられました。

●統計情報を見る眼

- ・とても理解しやすい講義でした。具体例も想像しやすく、分かりやすかったです。統計の考え方や捉え方などは仕事でも大いに応用できると思い、とても興味深く拝聴しました。今まで何となく見ていた統計情報でしたが、情報は自分で判断し、取捨選択するものなので、惑わされないよう今後注意深く見てみようと思います。
- ・講義に参加して、グラフの書き方ひとつで同じことを書いても受ける印象が違ってくることに驚きました。外れ値や双峰型分布のことを教えていただき、平均と言っても、そこに当てはまる人が少なかったり多かったり、平均を上げていたりする所があったりすることに考えさせられました。

●発達障害者の地域支援

- ・当事者や地域での取り組みが重要であることを感じた講義でした。もっともっと障害を抱えた本人や家族が社会の中に入り込んでこれるような地域になればと感じました。

●知的障害者福祉論

- ・高齢者福祉施設に勤務しているが、今までいかに狭い視野で福祉全体を捉えていたかを痛感しました。グループホーム、小規模多機能型施設が増えつつありますが、あくまで高齢者対象であって、地域福祉の実現への動きが限定的なものであると、先生の話から理解できました。
- ・昨今しきりにいわれている、利用者本人の意思の尊重や選択の尊重といった観点が、見方を変えれば利用者個人への責任の押し付け（国家の責任の軽減・放棄につながる）といった視点での現状認識は私にとって考えさせられる契機となった。
- ・普通や一般的という多数は（マジョリティ）が少数派（マイノリティ）を生きづらくするのではないか。これはいじめ問題等にも関連していると考えます。みんな違うから楽しいと思える社会、障害者というレッテルをわざわざ貼らなくても当たり前にいる感覚が持てる社会が望まれる。

●NPO論

- ・教科書や資料のみならず、フィールドワークに基づく内容や最近の動向など、現実に則した内容の講義を聴けた。特に東日本大震災の被災地における雇用支援活動については食い入るように聴いた。また、復興問題を中心とするNPOやボランティア活動のあり方、日本における財政支援の貧弱さなどに対する批判など、心を動かされた。とにかく、受けごたえのある講義だった。

- ・ NPOの活動について興味を持っていたが、講義を聴いて、大切にすべき点や論理的なところについて、自分の中で整理することができてよかったと思う。いつか自分でもNPOの活動ができたらいと思った。
- ・ 3. 11後のNPO活動などを、実在のNPO団体の名前を挙げて説明してもらえたのがよかった。テキストだけでは学べない内容でした。

●福祉リスクマネジメント

- ・ 「ヒヤリ・ハット」についての考え方が変わりました。今までなら、ヒヤリは悪いものだと考えていましたが、この講義を聞いて事故をなくすためには「ヒヤリ・ハット」の分析を十分に行っていくことが大切だということ学びました。今後の業務に大いに生かしていきたいと思います。
- ・ 人間である以上リスクは常にあり、全てをなくすことは不可能であること。訴訟を恐れて隠ぺいすることを考えることなく、事実をオープンにし、家族の心情を考えて説明や理解を求めながら信頼関係を築くことの重要性を分かりやすく教えて頂きました。

●福祉用具と生活支援

- ・ 環境因子を変革・改善することで、障害となっていた機能を復活させ、普通に生活できるようにする福祉用具の意義に改めて大発見の思いでした。そのための科学的なアセスメント、あくまでも主体者は本人であることの徹底した作業態度、用具の開発態度、「微調整を繰り返す」という本人主人公の実践態度など非常に学ぶことが多く感動でもありました。
- ・ 福祉用具がCBRの実現のための環境因子としてとても大きな役割を持っていることに驚いた。適合した車椅子を使用したことで活動的に変化した事例を見て、福祉用具の無限の可能性を感じた。
- ・ 本人のためにと行って行っていた様々なことが、介護員の考えとは反対に利用者さんを苦しめていることもあると知り、とても勉強になった。何気なく使っていた車いすも、利用者さん個々に合わせることで、その後の生活が劇的に変化すると知り、とても興味深かった。「目からウロコ」の3日間だった。

●医療・福祉経済論

- ・ 社会福祉も国の政策のひとつであり、これらが成り立つためには国や地方自治体の経済がしっかりしていなければならないことが分かった。また、何事にも考察のうえでは数字的根拠の分析が必要であり、経済学の知識が求められることが分かった。受講者人数は少なかったが、行政や法人運営に携わる人にはぜひ受講をお勧めしたい科目だと思った。
- ・ 数字を通して東北の高齢化率の高さを痛感させられ、このまま人口が減少していったら、

私が住む町は一体どうなっていくのだろうと考えさせられました。今後経済を支えていく私たちがどうするべきか考える機会となりました。

●家族法

- ・ 法律用語は難しい言葉や内容が多いですが、それをかみ砕いて教えてくださったり、何度も何度も繰り返し説明して下さることにより、難しい法律分野でも自ら学ぼうという意欲が湧いてきます。
- ・ せっかく覚えた知識を無駄にしないように、日常生活の中でも“法からの視点”をうまく活用していきたいと思います。

●人的資源論

- ・ 齋藤先生の講義を、もっと若い学生のときに受講できたならば、もっと違った人生があったのではないかと思います。しかし、いろいろ経験し、過去と照らし合わせることができたので、より深く理解できたのかもしれない。自分自身のこれからのとても役立つ講義でした。
- ・ 就職には不自由せず自己の内面に捕われていた私は、社会全体に対して無頓着であり、そのような視野を持っていなかったことに気づかされました。深い人間関係のためにも社会の現状や経済の仕組み等をバックグラウンドとして理解していることは重要であり、また自分が社会の一員であり、どのように社会に関与していくか、働きかけるかという考えを持ちたいと思いました。先生のお話大変面白かったです。

●特講・社会福祉学15（認知症介護論）

- ・ 認知症の方への対応について、大いに学ぶことができました。行動をおさえる、納得させる、言葉でごまかす、こちらのスケジュールを押し付けるなど今までのしてきたことは全てその人らしさを失わせていたのだと思います。今後の対応の変換をしていきます。現場にももっと理解を進めさせたいと思います。
- ・ BPSD（認知症の行動・心理症状）を改善していこうとする認知症の人との関わりでなく、その人らしさや思いを大切にするパーソンセンタードケアの素晴らしさを学ぶことができました。そして、パーソンセンタードケアを実践していくことでBPSDも改善していくことにも驚きました。
- ・ 高齢者や認知症、障害の有無に関わらず、ケアをする、ケアを受けるということに境界はないのだと改めて思いました。これからの仕事に生かせるようにさらに学んでいきたいと思いました。

●特講・社会福祉学16（災害福祉論Ⅱ）

- ・ 「災害は忘れる前にやってくる」という先生の言葉が印象深かった。被災者がストレスを

抱えることはもちろんだが、「支援者」もストレスを抱えるということを忘れてはいけないということを考えさせられた。

- ・ 私たち福祉職は人のために、ということを優先しがちであるが、まず自分が生きるということ。どこで決断するか、何をあきらめるか、選択すること、撤退する勇気も重要であるということが印象に残りました。公助に頼らずに生き延びるための備え、コミュニティの大切さを実感しました。

●特講・社会福祉学17（地域精神保健医療福祉の現場から：ACTの取り組み）

- ・ ACT（重症精神障害者に対する地域生活支援プログラム）の理念は市民として考えたら当たり前のこと、でも難しい。講義で紹介された「他人が持っている富を本人に発見してもらうこと」という言葉を心に留めておきたい。
- ・ 実際に ACT を利用されている方からお話を伺うことができました。これまで経験された苦しさ、辛さを人前でお話できる勇気がすばらしいと感じます。ACT があったからこそ、そうすることができたのではないかと思います。
- ・ 私自身 ACT に長年関心を持っており、西尾先生の実践経験に基づく講義を聴けたことがとても嬉しかったです。当事者が重い障がいを抱えていても地域で自分らしい生活や人生を送るために一体何が必要か、改めて考え直したと同時に、利用者や実践現場でのお話を聴いて生半可な考えでは実践が難しいことも痛感しました。また、自分自身に利用者の思いや困難さに対峙する覚悟も問われた時間でもありました。

●特講・社会福祉学7（精神保健福祉士国家試験対策講座B）

- ・ 勉強の仕方、解答の仕方などこれまで学習したことが定着していることの確認を自分で認めることができた。講義を受ける前と後では気持ちが落ち着き、不安が減っていると思った。なにより面白かった。
- ・ 今回は過去問も手を付けられず、焦りながらの出席でどうしたものかと思っていました。しかし、今後の勉強の仕方もしっかりわかり、2日かけて先生からのアドバイスや励ましもあり、大変自信がつけました。学習としては進んでいないことをしっかり自覚しつつ、あとはやるだけだと気持ちも新たになりました。あと数か月頑張るためのエキストなりそうです。
- ・ 最初の実力テストでは全く問題が解けず、ショックだったのですが、講義を受けてから改めて問題を解き直すとスムーズに解けるようになりました。問題を何度も解くという地味な作業ですが、毎日続けてみたいと思います。

●相談支援（幼保特例講座科目）

- ・ 先生の「一人一人の保護者といかに信頼関係を築けるか、そこからが支援」という言葉で初心に帰りました。日々仕事に追われていますが、いい仕事をしたいならいい先生に

なる、子どもに好かれる先生になるという気持ちで、また明日から頑張ります。

- ・ 保育相談支援について、自分は保護者を指導する立場であると捉えていたことを反省しました。保護者の話を良く傾聴し、丁寧に展開していきたいと思います。

●乳児保育（幼保特例講座科目）

- ・ 幼稚園にて幼児教育に関わってきて、「教育」を常に意識してきましたが、0歳児・1歳児は保育・福祉の面での配慮が非常に大きなウェイトを占めていることを改めて強く意識することができました。今後の自分の大きな課題です。大変勉強になる講義でした。
- ・ 保護者や地域の方とともに、みんなで力を合わせて子どもを育てることの大切さを改めて感じました。
- ・ ビデオや DVD など、実際の乳児を見ることができてとても役立ちました。また、何よりも子どもの命を守る、ということの大切さを学ぶことができたと感じます。医療の知識もさらに必要だと感じました。